

平成 25 年 3 月 31 日

大津市長

越 直 美 様

大津市びわ湖大津館の利活用審議会

会長 岩 波 弘

びわ湖大津館の利活用についての提言

びわ湖大津館（旧琵琶湖ホテル）は、昭和初期に国策として全国に 14 件建設された国際観光ホテルの 1 つです。現存するものは極めてわずかで、桃山様式と呼ばれる和風の外観と赤絨毯に象徴される洋風の内観が特徴的な、当時の旧状を残す貴重な歴史遺産となっています。

また、琵琶湖辺の恵まれた自然の中、広がりのある多目的広場や回遊性のある散策園路を持つ柳が崎湖畔公園内に位置しているため、広場や水辺と一体的で多様な利用が可能な施設です。

さらに、びわ湖大津館に隣接する約 5,900 m²の敷地には、イングリッシュガーデンがあり、約 100 種 2,000 株の薔薇を中心として四季折々の花を咲かせています。5 月から 6 月の薔薇のシーズンには、他府県からも沢山の来園者があります。

このように、びわ湖大津館は大いなる可能性を秘めた施設であり、市民ニーズに対応した利活用を行うことで、施設の活性化はもとより地域の発展に貢献するものと思われます。

この度、柳が崎湖畔公園びわ湖大津館の利活用について、本審議会において検討を重ねました結果、その方策を下記のとおり取りまとめました。大津市におかれましては、この提言を踏まえてびわ湖大津館の新たな集客につながる管理運営を検討され、関係機関とも必要な調整を図られるようお願いいたします。

記

1. 琵琶湖の自然を活かした環境学習施設としての利活用を図る
2. 琵琶湖畔に位置する観光スポットとして利活用を図る
3. 学生や地域住民、ボランティア団体等の協働の場として利活用を図る
4. ロケーションを活かしたイベントの場として利活用を図る

1. 琵琶湖の自然を活かした環境学習施設としての利活用を図る

【内容】

砂浜、芝生広場、びわ湖大津館を一体的に利用できることから、植物や水生動物などの自然環境に関する学習研究、親水スポーツ（カヌーやドラゴンボートなど）体験、漁業体験などの体験学習施設として活用します。

近隣では学校の授業や遠足ルート等に、遠方からは旅行代理店等と提携して修学旅行等の行程に組み入れてもらうことなども考えられます。また、環境学習や親水スポーツ体験などを事業展開している民間企業等とも連携できれば、利活用の幅はさらに広がると考えられます。

【課題】

学校向けPRが必要です。また、各種体験学習に必要な施設の整備や道具の準備、人材の派遣など、びわ湖大津館の管理運営者だけで賄えない部分については、民間企業の協力も必要となります。さらに、危険を伴う体験学習については、事前に保険に加入するなど、安全対策を十分にとっておく必要があります。

砂浜及び芝生広場の利活用にあたっては、隣接するマンションをはじめとして近隣住民への配慮が必要です。



2. 琵琶湖畔に位置する観光スポットとして利活用を図る

【内容】

貴重な歴史遺産としての性格やイングリッシュガーデンの魅力の発信に努めること、また、旅行代理店や観光会社と提携することで、比叡山のガーデンミュージアムや草津市の水生植物園といった類似施設をはじめ、近江神宮などの登録文化財とも連携が図れ、それらを一連の観光ルートに設定することができます。水上・陸上どちらからもアクセスできる立地は、まさに観光に適していると言えます。

びわ湖大津館はホテル時代には「湖国の迎賓館」とも呼ばれ、昭和天皇をはじめ多くの著名人（ヘレンケラー女史、ジョン・ウェイン、川端康成など）も利用されました。普通車 170 台、大型車 9 台を収容する大規模な駐車場（有料）もあるので、旅行会社や観光ビジネスと連携し、大津の観光スポットの一つとしてPRすることができます。また、びわ湖畔に位置するというロケーションを活かし、映画やドラマの撮影を誘致することなども考えられます。

【課題】

公園施設やびわ湖大津館の定期的なメンテナンスやリフレッシュは当然のことですが、加えて周辺施設の整備も必要です。

水上・陸上交通を通じて、観光客や公園施設利用者をびわ湖大津館に誘導する場合、周辺道路等の案内板は親切でわかりやすいものになっているか、市内各地にある観光案内板で適切な表示や誘導ができているか、などを点検し、関係機関と調整をはかる必要があります。



3. 学生や地域住民、ボランティア団体等の協働の場として利活用を図る

【内容】

滋賀県内の大学と地方自治体が相互に連携する「環びわコンソーシアム」、語り部をはじめとした地域の住民、砂浜に打ち上げられた藻を除去するボランティア団体等とも協力し、びわ湖大津館を利用する輪をさらに大きく広げていくことも大切です。ボランティア団体等の中には、他の類似施設でも活動されている団体もあり、施設間の連携につながることも期待できます。

また、会社の会議や研修、学生の勉強や会合、サークル活動、地域住民やボランティア団体の寄り合いなど、様々な会合の場としても利用できます。

【課題】

それぞれのボランティア団体が公平に活動いただけるように、作業頻度や活動範囲など、細かなルール作りが必要となります。

既存のボランティア団体の輪を更に広げて行くことに併せ、住民が新たにボランティアとして関われるように、イベントや維持管理を企画・工夫することも必要です。



4. ロケーションを活かしたイベントの場として利活用を図る

【内容】

当該地は、本市の湖岸部でも、比叡山と琵琶湖の両方を一望できる、希少で風光明媚な場所となっています。また、京阪石坂線エリアの琵琶湖岸にあり、砂浜や多目的広場を持つ柳が崎湖畔公園内に位置するため、親水スポーツの大会やグルメバトルなど、多くの人が集うイベント等での利用に最適です。市内でも大型の都市公園が周辺に位置しており、それらのネットワークを活かした多様な利用も可能です。

また、びわ湖大津館の利用を広げていくためには、「隼より始めよ」のことわざのとおり、市役所内各課が主催または所管する数々のイベントや会議などにも適している公園施設であることを、庁内で広くPRし意識的に利用してもらうなど、まず足元からの利用を促進していくことも大切です。

【課題】

びわ湖大津館は設置者は大津市ですが、指定管理者制度で管理運営されています。指定管理の期間は平成25年度で一旦終了します。次回指定管理については、新しく整備された柳が崎湖畔公園とびわ湖大津館を一体として指定管理の対象とするのが望ましいと考えられます。

また、次回指定管理の募集にあたっては、指定管理の仕様書に「砂浜部分やイングリッシュガーデンなど、公園内における主要施設や、観光・イベントなどと連携した館の利用方法」について考案するよう明記し、民間活力を導入することで、利活用の幅をさらに広げていくことが必要でしょう。

